

大月コンテンポラリーアート 2026

透明なコピーとやわらかいリアル

9.5 sat - 9.13 sun

OTSUKI CONTEMPORARY ART 2026
Transparent Copies and Soft Realities

左：浮川秀信（ピアノ線） 中央：はしもとともこ（ミクストメディア） 右：大西伸明（樹脂に塗装）

【展覧会名】 大月コンテンポラリーアート 2026
透明なコピーとやわらかいリアル

【開催日時】 2026年9月5日（土）～13日（日）
AM10時～PM4時 OPEN 金・土・日・月

【会場】 ・メイン会場：大月町文化教育交流拠点 COSA
高知県幡多郡大月町小才角 350 TEL 0880-75-5262
・サテライト会場：ベルリーフ大月
高知県幡多郡大月町周防形 404 TEL 0880-79-5025

【アクセス】 宿毛駅から COSA
・バスで 40分（高知西南交通清水宿毛線「小才角」下車 徒歩7分）
・車で 30分（R321）

COSA は大月町の南に位置します。大月町内の国道321号線
沿いには高さが2～3mの赤い鉛筆が数ヶ所に立っています。



大月コンテンポラリーアート展は2022年に始まり今年で5年目になります。

今年は、京都市立芸術大学で版画を指導する大西伸明と大学院生たち、人形作家・はしもとともこ、そして彫刻家・浮川秀信を招き、「透明なコピーとやわらかいリアル」と題した展覧会を大月町文化教育交流拠点COSA、およびベルリーフ大月をサテライト会場として開催します。

副題の『透明なコピー』は、日常よく見かけるモノをアクリル樹脂に置き換え、精巧な彩色によってリアルに仕上げた大西伸明の作品を表しています。版画に携わる大西がテーマとする『複製』という行為は、これらの立体作品を通して、その意味をさらに拡張しています。

一方、はしもとともこは、織りをはじめとするさまざまなテクニクを駆使して制作したパーツから、豊かな表情をもつ存在感のある人形を生み出します。

そして、浮川秀信は、硬く強いピアノ線から、やわらかく曖昧な存在感を放つ立体作品を構築します。自身の作品を、浮川は「空気をつかまえる装置」と表現しています。

私たちは日々、目や耳、ときには触覚を通して世界を認識し、「これは何か」という判断を積み重ねながら現実を形づくっています。しかし、その「リアル」は決して固定されたものではなく、経験や記憶、素材や見え方によって揺れ動くものでもあります。本展に登場する作品たちは、そうした私たちのリアル感覚を刺激し、日頃の認識をやわらかく揺さぶってくれるかもしれません。

サテライト会場のベルリーフ大月では、大西伸明と京都市立芸術大学の学生たちが、ホテルのロビースペースを使ったインスタレーションを試み、その制作プロセスを会期中に公開します。

オープニングでは音楽会とはしもとともこによる人形ワークショップを開催するほか、会期中には大西伸明と京都市立芸術大学の学生たちによる、大月町の海水を使ったワークショップ『塩の結晶版画』も開催します。アーティストの指導によるクリエイティブな作品づくりを、ぜひお楽しみください。

大月町では、過疎化・高齢化が進行する中、地域の魅力を再発見・再発信、地域住民のつながりを深める新たな取り組みが求められています。本アートイベントは、地域振興と移住促進の一環として、芸術を通じた地域活性化を目的に開催します。

+1art

主催 +1art
共催 COSA（大月町）
後援 高知県、公益財団法人高知県文化財団、高知県立美術館、高知新聞社、RKC 高知放送
大月町教育委員会、KSS さんさんテレビ
協力 くろしお芸術協議会、ベルリーフ大月、中地シュウ（海辺の自然史研究舎）、笹島康仁（土葉舎）



令和8年度第76回高知県芸術祭協賛行事

【会期中イベント】 ● 参加費の記載がないものは参加無料です。

オープニング

9/5 土

於 COSA

PM 1:00-2:00 アーティストトーク

「OCA2026」 / 大西伸明、はしもとともこ、浮川秀信、京都市立芸術大学大学院生

PM 2:00-3:30 ワークショップ

「小さきものを作る」 / はしもとともこ

● 参加費: ¥500(材料代) ・定員: 5~6名(要予約 ▶ gal@plus1art.jp)

ピーナツに足が生えたようなカタチからスタート。
布やボタンなど、作家が用意する素材で、
20cmくらいの生き物を作ってみよう。



PM 4:00-5:00 音楽会 / 森下周央彌 (ギター)

森下周央彌 MORISHITA Suomi(ギタリスト、作曲家)

大阪音楽大学ジャズ科修了。大学でジャズを土岐英史(as)氏に師事し、
在学中からプロとして活動する。山口武氏、ハル高内氏にギターを学ぶ。
Naked voice a.k.a 野良犬、Far North Trio、など個性的なグループに
参加するほか、オリジナル曲を中心に様々なサウンドアプローチを試みている。
2021年にリリースの1st Album "Ein."ではバイオリンやチェロを使った
現代的な室内楽ジャズのサウンドが国内外から高い評価を得ている。



ワークショップ

9/13 日

於 COSA

PM 1:30-3:00

「塩の結晶版画」 / 大西伸明、京都市立芸術大学大学院生

● 参加費: ¥500(材料代) ・定員: 10名(要予約 ▶ gal@plus1art.jp)

従来の「インクで刷る版画」のイメージを覆し、
「海水(塩水)」をインクの代わりに用いてプリントする独自の技法に挑戦。
大月町の「美しい海」が作品に。



各会場展示スケジュール

C
O
S
A

9/5 土

展示公開 *開館: 金・土・日・月

/ 大西伸明、はしもとともこ、浮川秀信、
京都市立芸術大学大学院生

13日

ベ
ル
リ
ー
フ
・
大
月

9/6 日

公開制作 & 展示

/ 大西伸明、京都市立芸術大学大学院生

13日

【参加アーティスト】

大西
伸明

ONISHI Nobuaki



1972年岡山県生まれ。98年京都市立芸術大学大学院美術研究科版画修了。2013～14年、五島記念文化賞美術新人賞受賞によりドイツ、ベルリンに滞在する。唯一無二の自然物や、身の回りに溢れる工業製品、時間を経て「一点もの」となった人工物などを型取りし樹脂で複製。精巧な彩色でリアルに再現した部分と透明な樹脂の素地を混在させることで、再生産可能性と唯一性、実在と虚構の「あわい(間)」を顕現させ、「存在」や「オリジナル」とは何かという問いを投げかけている。現在京都市立芸術大学教授・多摩美術大学客員教授。

主な展覧会

- 2025 個展「あらゆる透明なユーレイの複合体」(真庭市蒜山ミュージアム/岡山)
 - 2024 個展「影見」(ギャラリーあしやシュレ)
 - 2022 「岡崎和郎・大西伸明『Born Twice』」・個展「光体」(MA2 Gallery/東京)
 - 2020 「京都市京セラ美術館開館記念展 京都の美術250年の夢」(京都市京セラ美術館)
 - 2016 「榮水亜樹・大西伸明」(Galerie Nicola von Senger AG/スイス)
 - 2014 「高松コンテンポラリーアート・アニユアル vol.04『リアルをめぐって』」(高松市美術館/香川)
 - 2012 「自由になれるとき—現代美術はこんなにおもしろい!」(岡山県立美術館)
 - 2011 個展「UNTITLED」(兵庫県立美術館)
 - 2008 個展(入善町 下山芸術の森 発電所美術館/富山)
 - 2006 個展「Desktop,Dress,Gray」(国際芸術センター青森)
- など国内外にて多数。

主な受賞

- 2013 「PAT in Kyoto:第1回京都版画トリエンナーレ」優秀賞、京都府文化賞奨励賞
 - 2012 第23回五島記念文化賞美術新人賞
 - 2008 「第1回岡山県新進美術家育成 | 氏賞」大賞
 - 2007 「あおり国際版画トリエンナーレ2007」あすなろ賞
 - 2004 「京都府美術工芸新鋭選抜展」最優秀賞
- など。



akaenpitsu
2006 樹脂に塗装



stone
2026 樹脂に塗装

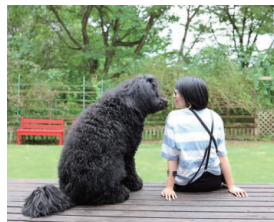


Tool box
2025 樹脂に塗装

【参加アーティスト】

は
し
も
と
と
も
こ

HASHIMOTO Tomoko



1985年 大阪生まれ。2010年 成安造形大学 彫刻クラス修了。
玩具の歴史を手がかりにその役割を読み解き、玩具が内包する機能や意味を表現へと転換する試みを続けている。2025年第一回人形研展ミヤタケイコ賞受賞。2026年より、国谷隆志とのユニット「antitail」としても活動を開始。

近年の展覧会

2026 「視線と夢」(ARTOSAKA2026・クリエイティブセンター大阪)
2025 個展「いるわけないわけない」(ONE AND ONLY gallery aproach/京都)
2024 個展「TAGUIな日常」(中内中堤側庵ギャラリー/三重)
2024 個展「いるわけないわけない」(ONE AND ONLY gallery aproach/京都)

ほか多数



マシュー
200x250x250 mm 2026
毛糸、生地、羊毛、皮革 他



Untitled
400x300x300 mm 2023
毛糸、綿糸、麻糸、布、羊毛、金属、ビーズ 他

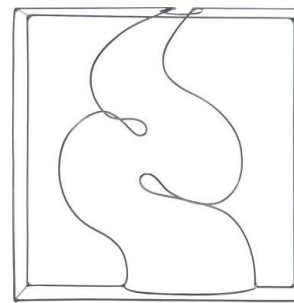
浮
川
秀
信

UKIGAWA Hidenobu

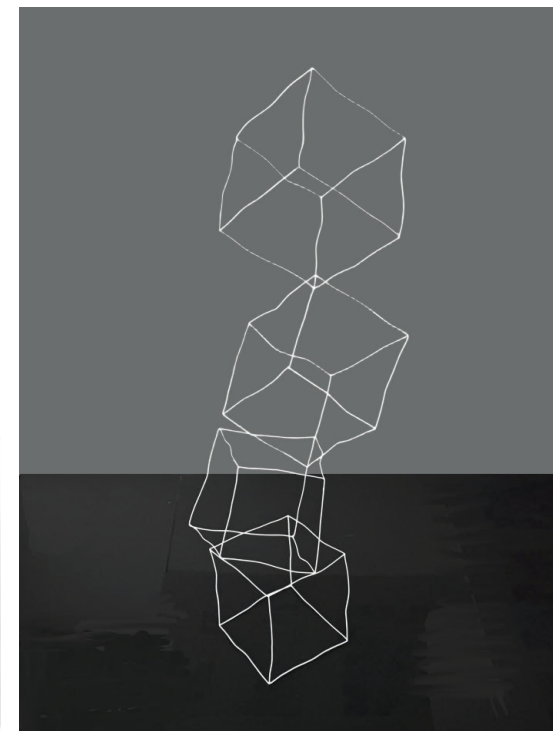


1968年 大阪学芸大学(現大阪教育大学) 絵画専攻科修了。大阪を拠点に活動。
1969年の初個展(あの画廊)、以降ほぼ毎年個展開催(信濃橋画廊 他)、アートナウ77(1976)、日本国際美術展(1978,'79,'81)など、70年代から現在に至るまで半世紀以上に渡り彫刻作品を多数発表。ここ10年くらいはピアノ線を素材に制作している。

近年の展覧会に猫亀屋(2025、大阪)、ギャラリー勇斎(2025、奈良)、+1art(2024、大阪)、またアートフェアにART OSAKA2025(2022、大阪市中央公会堂)などがある。



左: frame(square_KuneKune3)
155x155x50 mm 2022
ピアノ線、銀口ウ付け組立て、ラッカー塗装

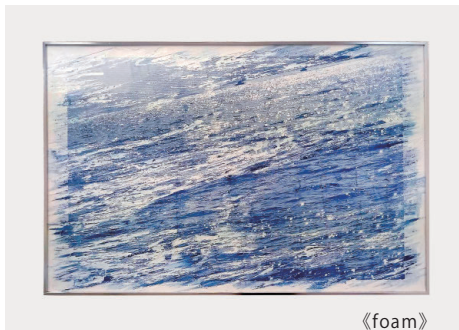


Untitled
2000x1000x1000 mm 2026
ピアノ線、銀口ウ付け組立て、ラッカー塗装

【参加アーティスト】

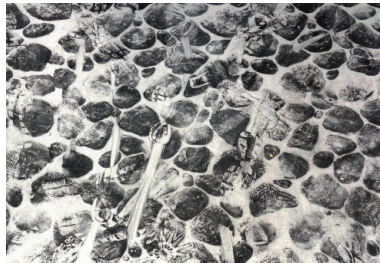
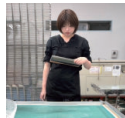
京都市立芸術大学大学院生

・中桐 聡美
NAKAGIRI Satomi
博士課程3年



《foam》
2023 800x1220mm
紙、水性インク、シルクスクリーン

・岡田 摩耶
OKADA Maya
修士課程2年



《失われた時を求めて／タンソンヴィル再訪》
2026 6000x2000mm
炭粉、シルクスクリーン

・川畑 智雅
KAWABATA
Tomomasa
修士課程2年



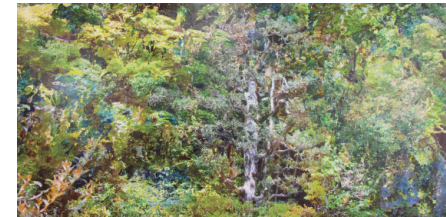
《Indirection² Wood》
2025 910x1370mm
シルクスクリーン、パラフィンによる凹凸版刷り

・田中 茜乃介
TANAKA
Sennosuke
修士課程2年



《二つ折りの部屋 Two fold room》
2025 279x356mm
ゼラチンシルバープリント、RC紙

・堀江 優希
HORIE Yuki
修士課程2年



《此处》
2026 910x1820mm
シルクスクリーン、メディウム、木